

木製階段60段を修理



△木製階段を取り替える参加者
(23日、白浜町安居で)

45人参加し道普請

白浜 世界遺産の「仏坂」

世界遺産に登録されている白浜町安居の熊野参詣道大辺路「仏坂」で23日、木製階段の老朽部分を取り換える保全活動があった。参加者は古くなった階段を取り外し、間伐材で作った新しい階段を丁寧に取り付けた。

白浜町とすさみ町、両町の教育委員会、西牟婁振興局でつくる県世界遺産大辺路地域協議会が「道普請」として参加者を募集。住民や世界遺産

マスター、自治体職員ら45人が参加した。修理したのは「安居の渡場」から日置川を渡ってすぐの約100坪の区間。世界遺産登録前に整備して以降では初めての修理で、約60段を取り換えた。

のわきに石を詰めて雨水を抜けやすくした。また、「階段はあくまで土留めが目的」とし、斜面がなだらかで、土の流失が少なくないと考えられる部分は老朽間伐材を撤去するだけにとどめた。

作業前に県世界遺産センターの七滝高至主任が「世界遺産 文化的景観について」をテーマに講演した。社会奉仕活動を目的に6年前に結成した、日置川プロバスケットボールクラブ（白浜町）は会員33人のうち26人が参加した。寺岡浩義会長は「地元の道は地域の人の手で将来に残したい」と話した。